巻頭言

アイテムとしてのマンガ・アニメ

マンガ・アニメが、観光やコミュニティにすっかり根付いてきたようだ。「MAP」「歩き方」といったキーワードを付けた案内本がいくつも刊行され、雑誌などの特集も数多い。マンガ・アニメは地域コミュニティのシンボルとして、また、人を呼ぶ観光ツールとして、まちづくりの重要なアイテムとなっている。

早い例は東京世田谷の桜新町であろう。桜新町は『サザエさん』の作者長谷川町子が長く住んでいたところである。その縁で、1987年、東急田園都市線桜新町駅から「長谷川町子美術館」（1985）まで、商店街の通りが「サザエさん通り」と名付けられた。「通り」沿いにはおなじみのキャラクターが道路端や店先に顔を出していて、思わず微笑んでしまう。桜新町商店街のホームページも『サザエさん』テースト満載である。

1993年、鳥取県のJR境港駅から現在の「水木しげる記念館」（開館は2003年）あたりまでの通りが、「水木しげるロード」としてリニューアルされた。境港市は水木しげるが育った町で、「ロード」沿いには代表作『ゲゲゲの鬼太郎』のキャラクターをはじめ150体に及ぶ妖怪像が建ち並び、道行く人を異界に誘い込む。軒を並べる商店は、いずれも「鬼太郎」や「妖怪」をテーマとした店作りをはかり、統一感がある。この「ロード」は、シャッター通りだった商店街の活性化を企図して作られたもので、賑わいを回復した見事な一例となっている。

加えて、米子駅から境港駅までを結ぶJR境線には「鬼太郎列車」他３種のキャラクター列車が走り、米子空港は「米子鬼太郎空港」と愛称され、まちは「さかなと鬼太郎のまち境港市」と名告っている。マンガ・アニメはまさに地域挙げてのアイテムなのだ。

先年、東北宮城に出かけたとき、石ノ森章太郎の故地を訪ねたことがある。生地登米市石森では、生家が一般公開され、すぐ近くには所蔵資料も豊富で充実した「石ノ森章太郎ふるさと記念館」（2000）がある。付近には、幼少期に遊んだ神社や路地がそのまま残り、作品内のゆかりを知ることができる。石ノ森章太郎一色のエリアである。

同じ宮城県内の石巻市も、石ノ森章太郎のマンガでまちおこしを図っている。2001年、JR石巻駅から北上川河口の中瀬に建つ「石ノ森萬画館」（2001）までの通りが、「いしのまきマンガロード」（2001）として整備された。「ロード」沿いには代表作『サイボーグ009』他、石ノ森作品のキャラクターモニュメントが建ち並ぶ。宇宙船を象ったユニークな造りの「石ノ森萬画館」は、『仮面ライダー』をはじめ子ども向けの展示やイベントが来館者を楽しませてくれる。

この「萬画館」が巨大な津波に飲み込まれたのは東日本大震災（2011年３月）の時である。甚大な被害を受け、閉鎖を余儀なくされた。まちの復興にマンガ・アニメが直接役に立つことはなかっただろう。だが、震災後、何も考えられず、何も手を付けられなかった人々にとって、マンガのヒーローは勇気やエネルギーを与えてくれるかけがえのない存在となったという。「石ノ森萬画館」が再開されたのは、震災から１年８ヶ月を経た2012年11月のことであった。

大　塚　　博
（跡見学園女子大学副学長）